

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

| | |
|------------------------------|---|
| 名称：末吉いづみ保育園 | 種別：認可保育所 |
| 代表者氏名：園長 住吉貴久 | 定員（利用人数）： 200名 |
| 所在地：〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉3-6-2 | |
| TEL：045-570-5125 | ホームページ： http://www.misasakai.or.jp |
| 【施設・事業所の概要】 | |
| 開設年月日：1968年5月20日 | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人三篠会 | |
| 職員数 | 常勤職員： 26名 非常勤職員： 33名 |
| 専門職員 | 保育士（常勤） 23名 栄養士・調理員（常勤） 2名 |
| | 保育士（非常勤） 22名 調理員（非常勤） 6名 |
| | 保育補助（非常勤） 2名 事務員（非常勤） 2名 |
| | 看護師（非常勤） 1名 |
| 施設・設備の概要 | （居室数） （設備等） 乳児クラス4室・幼児クラス4室 |

③理念・基本方針

「健康で明るい子に育てる」「感謝と思いやりのある子に育てる」「創造性豊かな子どもに育てる」という保育目標にもとづき、日々保育や遠足などの園外保育に取り組んでいます。

「保護者が安心して預けられるよう、子ども一人ひとりの個性を尊重し、明るい挨拶などの当たり前の事柄を丁寧に行い、笑顔と真心を持って保育にあたる。」という保育方針の下、生後57日から5歳児（就学前）の保育を必要とされるお子様を預かる施設です。

④施設・事業所の特徴的な取組

子どもたちにとって安全で快適、楽しい場所を目指す・・・といった保育の充実に加え、子ども・子育て支援新制度に伴い、多様なアプローチによる社会性の発達を支援することも必要になってきていると感じています。そこで、保育園でのボランティア参加を拡充できないか検討しています。現在は、手話や体操教室を中心に、また地域の企業に勤めている外部の方にご来園いただいておりますが、より幅広い方々と子どもたちが触れ合うことができれば、「おうちの人」「保育園の先生」といった固定の人間関係以外から育まれる社会性の獲得と成長へとつながるのではないかと考えるからです。

また、他の保育園同様に保育士の確保と育成も課題です。処遇改善や働きやすさへの取り組みはもちろんのこと、ここ末吉いづみ保育園だからこそ「経験できる」「学べる」特色を打ち出したいと考えています。特に、また隣の下末吉公園を使わせていただき遊ぶ事が多く、元気に走り回っていますが、今後その活動量を数値などのデータとし、より科学的に公園での遊びを充実していきたいと考えています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2021年7月6日（契約日） ～ 2022年4月11日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 4回（令和元年度） |

⑥総評

◇特に評価の高い点

特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、園全体で支援できるように心がけている

特別な配慮が必要とする子どもの保育にあたっては、個別指導計画を作成し、その対応についてリーダー会議や職員会議で共有している。また、積極的な研修への参加によって必要な知識を得るように努め、情報共有し保育に取り入れるようにしている。日々の子どもの様子についても意見交換や情報交換を行い、支援方法を振り返りながらクラスを超えて園全体で支援できるように心がけている。

子どもが主体的に活動できる環境づくりに力を入れている

乳児、幼児ともに主体的に遊びや運動、制作などの活動に主体的に興味を持ち関わるような環境づくりの工夫をしている。子どもの発達や興味に合わせた玩具や絵本、手作り玩具の提供など職員間で話し合い、定期的な見直しもやっている。隣接する公園は広大な敷地であり、子どもたちが自由に外遊びを楽しむことができる場所が確保されている。また、廃材を使った制作活動にも力を入れており、テーマに沿って各クラスで作品作りを行い、全学年の作品展につなげる取り組みも行われている。

子どもの安心・安全を第一優先にリスクマネジメントに取り組んでいる

園では、災害時における子どもの安全確保のための取り組みを組織的に行っており、子どもの安心・安全を第一優先にリスクマネジメントに取り組んでいる。定期的（毎月一回）な避難訓練、また地震や大災害の発生を想定した訓練を実施するとともに、防災係りが備蓄などの管理を行っている。毎年、警察立ち合いの下での不審者訓練、さらに施設内安全点検表にて設備のチェックを実施し、安全確保に努めている。また、実践研修（救急救命研修、不審者対応研修など）により職員の緊急時の体制づくり、意識の向上に努めている。事故の予防や改善についてヒヤリハット、事故報告書で原因分析をし、改善に向けた取り組みなど、安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。

◇改善を求められる点

指導計画の検討及び作成にあたっては、全職員で取り組むことへの工夫が望まれる

全体的な計画は、月齢、年齢、園の方向性を統一し、年度初めに園長と副園長が作成し、全職員が確認できるようにしている。作成された全体的な計画を基に各クラスにおいて指導計画の作成を行っているが、計画作成及び検討に携わっている職員は、改善点や検討すべき点を把握しているが、全体への周知はされていないことを課題としている。計画作成及び検討にあたっては、できるかぎり全職員で取り組むことへの工夫が望まれる。

園独自の中・長期ビジョンの策定も必要とされる

法人としての中・長期的なビジョンに基づいた単年度の事業計画及び保育計画が策定されている。年に一度、事業計画を作成し、園長が毎年度末に事業計画の見直しを行なっている。また、園長は、鶴見区の園長会や保育主任会に出席して地域の実状を把握し、待機児童の動向など各種の情報を収集し、計画の策定及び見直しに反映させている。園の自己評価の結果にもとづいて事業計画の見直しも行なわれているが、園内の微調整にとどまっているため、園独自の中・長期ビジョンを策定し、未吉いづみ保育園としての計画策定も必要とされる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審し、評価機関による別視点の課題が発見できましたし、新たな発見にもつながりました。この結果をふりかえり、よりよい保育園運営を図っていきたいと思いました。

また、第三者評価を受けるにあたって、多くの保護者にも参加していただきました。保護者からの評価や自由意見を職員会議の場で職員全体に共有させていただきました。日ごろの保育を振り返る良い機会となり、大きな成果だったと思います。今後の保育に活かしてきたいと思います。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり